

今様・草加宿エリア

東京外環自動車道(国道298号線)

今様・草加宿

近世初頭、江戸と奥州各地をつなぐ街道は、千住から八条・越ヶ谷へと大きく迂回していましたが、やがて幕府は千住・越ヶ谷間を最短で結ぶ新道を整備し、その中間に近隣の村々からなる新しい宿駅の設置を命じました。草加宿の始まりです。

「今様」とは「今風の、現在視点での」という意味があり、スローライフの視点が盛り込まれています。

「道しるべ」がみなさんの散策のお手伝いをします。

今様・草加宿エリアの各所には、散策のお役に立てるよう、「道しるべ」が設置されています。散策ルートの目印にぜひご利用ください。



- みどころ
- みどころ公園
- トイレ
- パーキング
- 銀行・信用金庫
- 郵便局
- バス停
- せんべい店
- 道しるべ



至越谷

国指定名勝

おくのほそ道の風景地 草加松原

国指定名勝へ

平成26年3月18日、松原芭蕉の「おくのほそ道」に関連する10景13件の名勝地が、後世の人々の風景観に影響を与え、今なお往時の雰囲気を伝える一連の風景景観として評価され、一群として国の名勝に指定されました。草加松原は、「おくのほそ道」にも登場する草加宿の北側に位置します。江戸時代から日光街道の名所として知られ、今なお「おくのほそ道」の時代の雰囲気を伝える優れた風景景観であることが評価されています。

なお、その後の追加指定により、風景地全体の充実が図られています。

松尾芭蕉も歩いた街道

元禄2年(1689)3月、今の暦では5月、江戸深川を船出して千住に向かった芭蕉は、そこで見送りに来た人たちに別れを告げ、日光街道第二の宿駅・草加に立ち寄り着きました。「もし生きて帰らば、定めなき旅の末をわかれ、その日やうらう早(草)加といふ宿にたどり着きにけり」と、「おくのほそ道」中に登場するのが草加です。芭蕉が草加に記したのは、人々の別れを惜しみ、青の荷の重さに苦しみながら書いた、第1日目のたどたどしさを強調するためだったのではないかと説かれています。

古木のたたずまい

現在634ある松の中には、古木が60本程度存在します。一目見てわかるその姿は、幹周り2メートルにも及ぶもの、綾瀬川にたぎせり出しているものなど様々です。古木の佇まいを楽しみながら、草加松原を歩くのも一興です。

草加松原今昔

松並木は、一般には天和3年(1683)の綾瀬川改修のときに植えられたといわれています。また資料上では寛政4年(1792)に1230本の苗木を植えた記録が初見です。以後、画家や文芸家たちが多くの作品に描き残しています。昭和になってその景観が60数本まで減ってしまいました。それを憂いた市民が中心となって補植や保護の手当を加え、現在では634本まで回復し、平成26年3月に国の名勝に指定されました。今では、過去と未来を繋ぐ散歩道として親しまれています。

今昔



草加八景

- 市制 30 周年を記念して昭和 63 年(1988)に市民からの公募により選定されました。
- ①日光街道草加松原 (MAP 今様・草加宿エリア)
 - ②商店 (おとだ) 河岸 (現在は石橋のみ)
 - ③葛西用水の桜並木 (久伊豆神社以南) (MAP 葛西用水エリア)
 - ④森と桜の並木 (北谷一丁目と小山一丁目間)
 - ⑤辰井川十橋 (MAP 谷塚エリア)
 - ⑥綾瀬川の桜並木 (MAP 草加宿エリア)
 - ⑦浅間神社境内 (MAP 谷塚エリア)
 - ⑧東福寺境内 (MAP 今様・草加宿エリア)

草加の特産物

- 特豆** 草加の枝豆は昭和30年代から本格的に栽培され始め、市や地域で盛んに生産されています。特長は「甘みのある味の良さ」です。7月上旬頃に収穫のピークを迎え、収穫は8月中旬頃までとなります。
- 小松菜** 草加での生産は、明治時代から始まったとされています。一時期中断を余儀なくされていますが、戦後は再開され谷塚地区・新田地区で盛んに栽培されるようになりました。現在も草加で生産される商品は品質が良く市場で高く評価されています。
- きん** 小さな球形から先ののがつった芽が伸びている姿から「芽が出る」と、昔から縁起物として、おめでたい席での料理の良さです。7月上旬頃に収穫のピークを迎え、収穫は8月中旬頃までとなります。
- きん** 小さな球形から先ののがつった芽が伸びている姿から「芽が出る」と、昔から縁起物として、おめでたい席での料理の良さです。7月上旬頃に収穫のピークを迎え、収穫は8月中旬頃までとなります。

見学・体験

- ※見学・体験には予約が必要です。各工場・店舗にご確認ください。
- 見学
 - ①地球儀 株選迎観製作所 048-936-0339 (福崎 3-20-14)
 - ②金属製品 イヌイフジヨシ(株) 048-931-7399 (松江 2-11-1)
 - ③金属製品 ヒガノ(株) 048-931-3321 (青柳 3-24-7)
 - ④紙製品 森紙器機 048-936-9321 (青柳 2-11-43)
 - ⑤金属機械部品 株選製作所 048-931-1255 (青柳 1-5-58)
 - ⑥プラスチック製品 株選セル 048-922-2251 (吉町 2-5-44)
 - ⑦自動車部品 株川島製作所 048-925-1573 (谷塚上町 434)
 - ⑧機械 株菊池機械工場 048-925-1245 (新里町 1355)
 - ⑨精密金属加工 株三恵精機 048-925-5630 (柳島町 565-36)
 - ⑩ケトル水櫃 株アークプロジェクト 048-942-3665 (北谷 2-7-15)
 - 体験
 - ①せんべい 株いけだ屋 048-922-2061 (吉町 4-1-40)
 - ②せんべい 草加せんべい志免屋 本店 0120-211-721 (神明 1-11-1)
 - ③せんべい 皮草 伝統産業展示室・売店「ぱりっせ」 048-931-1970 (松江 1-15 草加市文化会館内)
 - ④せんべい 株一本福本店 0120-037-129 (青柳 2-16-18)
 - ⑤せんべい 株山香煎餅本舗草加せんべいの庭 048-942-1000 (谷崎 790-2)
 - ⑥豆腐 株松原食品 048-936-5864 (中根 2-19-11)

草加の3大地場産業

草加市の名産品といえば、草加せんべいが有名ですが、長い伝統を誇るゆかた染め、高品質の皮革製品なども、歴史とともに育まれてきた地場産業です。

草加せんべい

せんべいといえば草加せんべい。こんがり焼けたうちもち100%の生地に、しょう油の香りがたまります。草加せんべいは、地域団体商標に登録されており、(一社)本場の物作り推進の食品ブランド「本場の本物」に認定されています。

皮革

昭和初期より、草加では皮革を扱う業者が多く、原皮の扱いから染色・裁断・縫製、最終製品までの工程がすべてそろうています。扱う皮革の種類が豊富で、バラエティ豊かな製品を販売しています。

ゆかた染め

県の伝統的工芸品に指定されている伝統産品。「東京本染めゆかた」のブランド名でおなじみです。注染技法により深くあざやかに染めぬかれた反物や手拭いは、眺めのこない銘品です。

これらは！ココで買うことができます。

伝統産業展示室・売店「ぱりっせ」A-2

- 草加市文化会館1階に常設され、草加の3大地場産業であるせんべい・皮革・ゆかた染めの歴史や製造工程の展示紹介をしています。また、地場産品の販売や、せんべいの手拭き体験、クラフト体験教室(要予約)なども行っています。
- DATA
- 10:00~17:00 ●無料
 - 毎月第1水曜・年末年始
 - 草加市松江1-15 草加市文化会館内
 - 東武スカイツリーライン 獨協大学前(草加松原)駅下車徒歩5分
 - 048-931-1970

草加の街の見どころを紹介 旧日光街道と草加宿

草加宿は、千住から2里8町、かつては東北地方の諸大名が参勤交代で往来し、松尾芭蕉が通った道でもあります。歴史を感じながらのウォーキングはいいかもしれません。

- B-4 東福寺** (とうふくじ) 「松寿山不動院東福寺」 慶長11年(1606)に、賢有によって創建されたと伝えられています。本堂・山門・鐘楼とも江戸後期の建造物で、本堂の内外陣地の彫刻欄間のほか山門と鐘楼は、市の指定文化財です。
- B-6 浅古家の地蔵堂** (あさふけのじざうだう) 江戸時代の豪商・浅古家が赤堀用水を流れてきた地蔵を抬上げ、子育ての地蔵として祀ったものといわれています。草加せんべいの歴史が伝わる。毎月24日に開かれます。
- A-3 河合曾良像** (かわいそうらう) 市制50周年を記念して、おせん公園に建立されました。河合曾良は「おくのほそ道」の旅に随行した芭蕉の門人です。
- A-4 おせん茶屋公園** (おせんちやうこうえん) 旧日光街道に面し、寄道の雰囲気やイメージした公園です。かつての場所は草加町役所跡などがあります。
- A-3 草加宿芭蕉庵** (くわかしゆくばしやうあん) 埼玉産のスキヤヒノキを使用した休憩舎を改修し、平成30年5月16日にオープンしたおせん公園です。草加せんべいの地場産品の販売や、ボランティアの方による観光案内などを提供しています。
- A-3 望楼** (ぼうろう) 石垣の上に建つ、埼玉産のスキヤヒノキを材とした木造の五層形の建物です。内部には旋回階段になっており、草加松原を見渡せます。また、夜間はライトアップされ、1階には望楼が映し出されます。
- A-3 神明宮** (しんめいぐう) 『草加町見聞史』によれば、元和年間初頭(1615頃)に祀られたのが始まりで、安永6年(1777)に木造八重神像を祀ったことにより現在の神社名となったと伝えられています。
- A-5 八幡神社** (はちまんじんじや) 『草加町見聞史』によれば、享保年間(1716-36)に稲荷神を祀ったのが始まりで、安永6年(1777)に木造八重神像を祀ったことにより現在の神社名となったと伝えられています。
- B-6 回向院** (かいこういん) 浄土宗の寺院で、本堂内陣には阿彌陀如来の尊像と法華上人の像が安置されています。外陣には香燈上人の尊像が安置されています。

草加駅前東口広場 B-5

おせんさん 草加駅東口のアカス広場の、せんべいを焼いている女性像です。

- A-3 神明宮** (しんめいぐう) 『草加町見聞史』によれば、元和年間初頭(1615頃)に祀られたのが始まりで、安永6年(1777)に木造八重神像を祀ったことにより現在の神社名となったと伝えられています。
- A-5 八幡神社** (はちまんじんじや) 『草加町見聞史』によれば、享保年間(1716-36)に稲荷神を祀ったのが始まりで、安永6年(1777)に木造八重神像を祀ったことにより現在の神社名となったと伝えられています。
- B-6 回向院** (かいこういん) 浄土宗の寺院で、本堂内陣には阿彌陀如来の尊像と法華上人の像が安置されています。外陣には香燈上人の尊像が安置されています。

札場河岸公園 (ふだばかしこうえん) A-3

草加松原南端にある、かつての「河岸」の面影を今に再現する公園です。園内にはかつて舟運でぎわった河岸場が復元されているほか、高さ12.5m(基礎の石垣を含む)の五角形の望楼が建てられています。また、お休み処「草加宿芭蕉庵」も設置されています。

- A-3 甚左衛門堰** (じんざゑもんせき) 伝古川の二重アーチ型のレンガ造りの水門です。灌漑や排水の時に使用された場所で、現存するものは明治27年(1894)に再建されたもので、埼玉県の指定文化財です。
- A-3 正岡子規句碑** (まさおかしくさの) 「梅を見て野を見て行き ぬ草加まで」

草加松原【国指定名勝】(そうかまつばら) A-1~3

- A-2 百代橋** (ひやくたいはし) 草加松原歩道に2つある木造の橋の1つです。昭和61年(1986)に建設され、橋名は「おくのほそ道」の「月日は百代の過客にして」にちなんで名付けられました。橋の上からは松並木の眺めがよく、絶好のビューポイントとなっています。
- A-3 矢立橋** (やたてはし) 草加松原歩道に2つある木造の橋の1つです。昭和61年(1986)に建設され、橋名は「おくのほそ道」の「行春や鳥鳴の日は退きを失ふの初して」にちなんで名付けられました。



漸草庵 百代の過客 (ぜんそうあん はくたいのこかく) A-2

- A-2 漸草庵** (ぜんそうあん) 日本文学研究者の Donald Keene 氏にちなみ、揮毫した木造平屋建ての茶室建築。茶道・華道・書・三味線など、草加の文化を発信するための施設です。なお、同施設内には、市内外から訪れた方のためのお休み処もあり、有料で早稲草餅も提供しています。
- 【申し込み・問い合わせ】**
 - 草加市文化会館
 - 048-931-9325
 - 10:00~16:00 (お休み処)
 - 9:00~21:30 (資料館・茶室・書道・三味線・小間)
 - 第1水曜日、年末年始

歴史民俗資料館 B-4

国の登録有形文化財

草加市の観光・産業・歴史文化に関するスポットやイベント情報などのご案内のほか、ガイドボランティア「草加宿案内人の会」によるまち歩きガイドの受付窓口などを行っています。また、デジタルサイネージやフレットラックも設置しており、草加市の観光情報やイベント情報などを求める際は、ぜひ草加市観光案内所へ。

- DATA
- 9:00~16:30
 - 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
 - 草加市住吉1-11-29
 - 東武スカイツリーライン 草加駅東口下車徒歩7分
 - 048-922-0402

草加市観光案内所 B-6

- 草加市の観光・産業・歴史文化に関するスポットやイベント情報などのご案内のほか、ガイドボランティア「草加宿案内人の会」によるまち歩きガイドの受付窓口などを行っています。また、デジタルサイネージやフレットラックも設置しており、草加市の観光情報やイベント情報などを求める際は、ぜひ草加市観光案内所へ。
- DATA
- 10:30~17:00
 - 年末年始(12/29~1/3)
 - 草加市文化会館
 - 草加市松原2丁目9-1
 - 東武スカイツリーライン 草加駅東口下車徒歩3分
 - 048-999-5970



そうかのガイドは「草加宿案内人の会」におまかせください

- 街中を歩くと、かつての宿場の雰囲気を感じさせる商家と白壁土蔵が現われ、寺内には文人墨客たちを偲ぶ碑も多く、札場河岸公園は松尾芭蕉像に始まる文化と文芸の表現舞台でもあります。数百年の年齢を刻む松原の古木たちは、往来人の喜怒哀楽の表情を語ってくれます。この魅力と松原の風情を訪訪者へ紹介するものが、私たちの仕事と願い、グループの希望に合わせたコースを設定しています。
- B-6** 案内所5人以上のグループで、事前に申し込みが必要です。
- 【申し込み・問い合わせ】**
- 草加市観光案内所
 - 048-999-5970
 - 10:30~17:00
 - 年末年始(12/29~1/3)、草加市文化会館